

## 説教要旨 「恥ずかしさを噛みしめて」

ヨハネによる福音書 21章15～19節



イエス様はペトロに「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と尋ね、ペトロは「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と答えます（15節）。この箇所ではそのやり取りが3回繰り返されていますが、ギリシア語の原典ではこのやり取りの中で、2種類の『愛』という言葉が使い分けられています。一つはアガペー。神の愛、完全なる愛、見返りを求めない無条件の愛です。そしてもう一つはフィリア。これは『友愛』と訳されたりもしますが、友情に近いものです。アガペーという神の愛に比べると一段低いイメージですが、高潔な愛の形です。

1度目の質問にイエス様は「アガペー」という言葉を用いて尋ね、これに対してペトロは「フィリア」を使って答えています。そのことを加味してここを翻訳しなおすとすればこんな感じでしょうか。イエス様が「ヨハネの子シモン、この人たち以上に私を、自分の命を捨ててもいいほどに愛してくれているか」と問い、ペトロは「主よ、わたしがあなたの事を大切に思っていることは、あなたがご存じのとおりです」と答えます。2度目も同じやり取りが繰り返されていますが、3度目にイエス様は「アガペー」ではなく「フィリア」を使って尋ねています。「ヨハネの子シモン、わたしのことを大切に思っているのだね」と。ペトロが自らの思いを「アガペー」ではなく「フィリア」という言葉でしか表現することができない様子を見て、イエス様も「フィリア」という言葉を用いて、つまり自分の愛の無さを痛感し、打ちのめされているペトロに、イエス様の方から歩み寄っておられるのです。

イエス様は自分の愛の無さを思い知らされて、<sup>みたび</sup>恥じ入るペテロに三度語りかけられます。今度は「アガペー」ではなく「フィリア」という言葉を使って、「私のことを大切に思っているか」と。そして「私の羊を飼いなさい」「私に従いなさい」と命じられるのです。愛無きペトロに、イエス様のために生きる道を指示して下さったのです。「私のために死ぬことができなくても良い、私のために生きなさい」と。

(2020・1・19 説教者：稲垣真実)